

## 理事長ごあいさつ



本年4月より、私たちJAMSTECは7年間に亘る第4期中長期目標期間に入りました。JAMSTECは2004年に前身である海洋科学技術センターから独立行政法人に移行し、移行後は1期5年間の中期目標期間を3期経て今日に至りますが、JAMSTECは

それまでの技術中心の時代から、科学と技術を両輪として推進する研究機関へと発展を遂げ、JAMSTECが誇るフリートや設備を活用して科学・技術のフロンティアに挑戦し、海洋・地球・生命の統合的理解を推進するための新たな知的体系の構築に大きな貢献をして参りました。

新しく始まりました第4期中長期計画においても私たちJAMSTECは、研究・開発・経営が強く結束した運営の下で、海洋を中心として地球・生命・人類の統合的理解をさらに進めると同時に、研究の手法や対象を柔軟に変えながら、国内外の大学や研究機関・産業界とも密接に連携し、その有益な成果を広く社会へ還元すべく発信して参りたいと思っております。

さて、そのような節目を迎えたJAMSTECではありませんが、本報告書の主題であります環境配慮の取組みにつきましても、この十数年来、着実に推進して参りました。

地球温暖化の要因である二酸化炭素の当機構における排出量も、その最大値は2006年度の約14万トンでありましたが、直近3ヶ年ではいずれも10万トンを下回り、2006年度比で約30%削減することが出来ました。また、昨年度策定いたしました当機構の「地球温暖化対策実行計画」の目標（2020年度までに2013年度比で10%の削減）に関しましても、直近3ヶ年の排出量はいずれも2013年度比で約20%程度削減出来ていることから既にこの目標を達成するに至っており、順調に温室効果ガス削減のための活動を実行しているところであります。

しかしながら、昨夏の災害にも匹敵するという酷暑は記憶に新しく、豪雨災害の頻度も増すなど気候の極端化は以前にも増して加速しているようにも思われます。地球環境研究を主たる研究対象の一つに据えているJAMSTECと

いたしましても、地球環境の保全に貢献すべく今後とも一層の環境配慮活動を推進して参る所存です。

一方、安全衛生管理の分野に関しましては、事故・トラブルの発生件数が2018年度は過去5年間に比して大幅に増加するという極めて恠怩たる結果を受け入れなければならない状況が発生しております。中でも通勤・出張時や海洋における観測に用いるブイ等に関連する事故・トラブルが増加しており、これらの原因分析の詳細に関しましては、本報告書にて述べさせて頂いているところではあります。ここ3年間、事故・トラブルを抑制するための目に見えた成果を上げることができていない現実があります。

この事故・トラブルの発生件数の増加については種々の要因が考えられますが、私たちはこの状況を厳しく受け止めており、今後については安全衛生管理体制を一から見直し、事故・トラブルの撲滅を目指して今一度強い意志の下、あらゆる取組みを講じて参ります。

本年の5月から元号が令和となり、新しい時代が始まりました。奇しくも私たちJAMSTECもこれと時機を一にして、新しい中長期計画の下で新たなスタートを切ったところであり、今後とも皆様のご期待に応え、新しい時代を切り拓くべく更なる飛躍を目指して精進して参りますので、私たちJAMSTECになお一層のご支援・ご協力を賜りたく、心からお願い申し上げます。

令和元年9月

国立研究開発法人海洋研究開発機構

理事長 松永 是